

- 1 「礼拝賛美」御手の中で
御手の中で すべては変わる賛美に
わがゆく道を 導きたまえ
あなたの御手の中で
- 2 御手の中で すべては変わる感謝に
わがゆく道に あらわしたまえ
あなたの御手のわざを

・小学科キャンプ 23(金)24(土)の
1泊2日で行いました。初日は箱根彫刻
の森を散策。ホテルに入ってからは小
雨もありましたが、室内でのレクリエー
ションや温泉を楽しみました。2日目はゆ
つたりとしたプログラムで自由時間には
体育館で遊びました。2日間で3回のバ
イブルタイムがあり、ヨハネの福音書か
らイエス様と出会った人々の姿を通して
福音の恵みを聞きました。茅ヶ崎シオン
と合同の楽しいキャンプでした。お祈り
を感謝します。

あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す。(イザヤ書46章4節)

シオン・キリスト教会の創立を記念する季節を迎えました。創立者夫妻に幻を与え、この地に教会を建てた主が、90年の長きにわたり群れを導いてくださったことを覚えて、今ここに共に集められていることを心より感謝します。

週報には、私たちに伝えられているシオン草創期の様子を少しだけ記しました。90年前に創立者夫妻とそこに集められた兄弟姉妹は、どのような思いで福音に仕えたのかと想像させられます。

シオン草創期は、世相としては非常に厳しい時代でした。軍部による満州進出が進み、日中事変、太平洋戦争へと進みます。キリス

- 【次週 9月8日(日)】
- *文書伝道デー 談話室で物品販売。
- *敬老の祝い 「敬老の日」は翌週16日(月休)ですが、霊修会もあるため8日に祈りの時を持ちます。
- *ハレルヤコーラス練習 10月6日創立記念礼拝に向けて練習です。

【書籍紹介】次週 文書伝道デー
教育部よりオススメ図書のご紹介です
「人はなぜ教会を去るのか」勝本正實 著
この本は、日本の暮らしの中には当たり前のように儒教や仏教が根付いており、クリスチャンになってからもその生活の不自然さに気づかないで暮らしていることに気付かせてくれ、日本の中でキリスト者として生きていくことが、どういうことなのか考えさせてくれます。
そして著者は、牧師また信徒として、教会の今の現状を客観的にとらえて、教会の課題や必要なことを投げかけます。

【霊修会 ご参加者へ】
■しおり配布 週報欄に入れました。
■送迎バス 利用希望者は、先日配布した『申込書』を提出願います。8日迄。

ト教会は敵性宗教として迫害され、多くの牧師が投獄されました。岸田愛治牧師はまぬかれたようですが、その分、投獄された牧師の家族を見舞って子どもたちを遊びに連れ出して慰めるなどしたそうです。

戦後も、多くの苦勞を負いながらも福音伝道にまい進し、今では蒲田を含めて6つの教会の群れへと成長しました。人の目には困難と見える道も、主が私たちを導き、神の栄光を現わす存在として生かしてくださいることを覚えます。

イザヤ書四六4は慰めに満ちた言葉です。教会も、そしてそこに繋がる私たち一人ひとりの人生も、主が背負ってくださいている

と、いうのです。
3節と4節には「担がれ」「背負う」という言葉が出てきます。ヘブル語原典では「背負う」に当てられている言葉は、ある状況から担ぎ出すという意味で、罪から救い出し、日々の困難から助け出してくださるということ。

「担がれ」は、継続的に支え続けるという意味です。私たちの人生を最初から最後まで支え続けてくださるのです。「体内にいたときから」(3)とあるように、私たちが意識するとしなれないに関わらずです。そして、私たちがこれから進む知らない道についても、主は共にいて支えてくださるということです。
今の時代は草創期とは違った意味での困難があります。しかし、私たちは主に担がれて進むという恵みに入れられています。主に信頼した創立者の信仰に倣いましょう(泰)

9月1日	創立記念日礼拝
第1礼拝 9時	荻野牧師 荻野し兄
第2礼拝 11時	吉田潔兄 高橋美姉
前奏	
招詞	マタイの福音書11章28節
会衆賛美	聖歌40 聖なるかな
会衆賛美	御手の中で
主の祈り	
交誼	詩篇103篇1〜5節 (旧約聖書 1040頁)
礼拝祈禱	
使徒信条	
聖書朗読	イザヤ書46章1〜13節
説教	背負い続ける主 (旧約聖書 1245頁)
聖餐	(第2礼拝)
会衆賛美	聖歌642
献金	のぞみも消えゆくまでに
頌栄	聖歌377 すべての恵みの
祝祷	
報告	
感謝祈禱	奏楽
※第1礼拝は、礼拝後に聖餐式	

【招詞(主の招きのことば)】
歴代誌第一16章8、9節「主に感謝し、御名を呼び求めよ。そのみわざを諸国の民の間に知らせよ。主に歌え。主にほめ歌を歌え。そのすべての奇しいみわざを語れ。」アーメン

【本日の予定】

■会堂清掃 第2礼拝後

■小学科ホザナ礼拝 11時〜3階
お

■バイブルカフェ
12時15分〜45分 談話室

■各会例会
ダニエル会 3階
ミモザ会 外部
オリーブ会 4階牧師室
青年会

【本日の礼拝奉仕者】

■第1礼拝
礼拝祈禱 荻野牧師
聖書朗読 荻野牧師
献金1階 司会者
献金祈禱 荻野牧師
報告 司会者
受付 荻野牧師
配信 配信チーム
聖餐

■第2礼拝
礼拝祈禱
聖書朗読
献金1階
2階
献金祈禱 司会者
報告 荻野牧師
会場
受付
パワポ パワポチーム
聖餐

【来週の礼拝説教】 荻野牧師
箴言 16章31節
20章24〜30節

【シオン・キリスト教会 創立記念日礼拝】

シオン・キリスト教会が誕生したのは1934年(昭和9年)8月のこと。創立者岸田愛治師の回顧によれば、蒲田駅前のおとん屋で腹こしらえをして、貸家探しから始めたそうです(創立四十周年記念誌に掲載)。

戦前は今の教会堂がある場所からもう少し蓮沼に向かった場所に教会がありました。太平洋戦争で戦災に遭い、東急線御嶽山に疎開。空襲で教会堂が消失した時には、空襲の炎でこはんが炊き上がり、それで握り飯を作って食べたという逸話があります(創立者生誕百年記念誌に掲載)。

余談ですが、その空襲で教会堂だけでなく備品や印刷物なども消失。当時を伝えるものとして残るのは、教員の方が保管していた印刷物と、オルガンが1台。オルガンは空襲の直前に疎開先に移動していたとのこと。現在はシオン館の玄関ロビー置かれ、今も音を奏でます。

さて、終戦後、現在地を借りて1949年(昭和24年)に会堂を復興・建設しました。

当時の教会の印刷物によると、創立者は終戦後すぐに蒲田駅前へ戻ることを志し、教員に祈りの要請をしています。その中に「会堂復興」「復興会堂」という言葉が使われていました。

開拓の幻を主から授かり、「蒲田」の地を示された創立者は、戦争という大きな災禍でこの地を一時離れなければならなかった時にも、その心は主が最初に指し示した地から離れず、主の回復と新しい出発の時を待ち望みました。終戦後まもなく、創立者から会堂復興の祈禱要請が時の印刷物に書かれています。1947年(昭和22年)には現在地を借りる話がついたようですが、戦後の混乱期において役所の許可を得るのに苦労をし、終戦から4年の歳月を経て蒲田駅西口への回帰を果たします。

以来70有余年。創立からは90年の長きにわたり、シオン・キリスト教会は、ここ、蒲田西口を中心に福音を宣べ伝え続けて今に至ります。

ところで、シオン教会創立の季節は台風の時節でもあります。教会の草創期を振り返ると、台風に関連したエピソード

ソードにも目が留まります。

創立年(1934年)には、かの「室戸台風」が関西方面に甚大な被害をもたらしました。

会堂復興中の1949年には「キティ台風」が関東を直撃。暴風雨の中、建築中の会堂の柱を創立者と数名の青年たちが支えたことは語り草です。創立90周年のこの日。台風10号が日本を縦断しています。人間の力をはるかに凌ぐ自然の脅威に翻弄されます。でもそれは、そんな自然界さえ治める天地万物の主信頼するようにとの語り掛けなかもしれませぬ。